

CSR報告書

CSR REPORT 2020



HOKKAN HOLDINGS



ホッカホールディングス株式会社



HOKKAN HOLDINGS

ホッカホールディングス株式会社

CONTENTS

編集方針／報告書の対象範囲／ 財務ハイライト	1
ホッカホールディングスの事業領域／ グローバル拠点(海外事業)／ ホッカホールディングスの歩み	3
社長メッセージ	5
持続的成長を支える経営資源 CSR活動	7
CSRハイライト	9
環境保全のために	11
安心・安全のために	17
従業員のために	19
地域とともに	21
コーポレート・ガバナンス	25
女性取締役へのアンケート	29
主要会社概要	30

「環境の世紀」

for Environmental Era

ホッカホールディングスグループ各社では、
「容器包装リサイクル法」などに基づいた
環境基準をクリアすることはもちろん、
独自の視野で環境に対する意識を
従業員一人ひとりが持つことを目的に活動しています。

「決まり事だから」「みんながやっていることだから」ではなく、
それ以上に何ができるかを常に考え、実践しています。

編集方針

本報告書では、当社グループに関わるすべてのステークホルダーの皆様に対し、当社のCSRの考え方およびグループとしての取り組みについて、その全体像を広くご理解いただくことを目指し、当社グループがそれぞれの事業活動を通じて社会に対して果たしている役割等につきご報告しています。

報告書の対象範囲

▶ 対象組織

北海製罐株式会社

本社(東京都)、中央研究所(埼玉県)、岩槻工場(埼玉県)、千代田工場(群馬県)、小樽工場(北海道)、明和工場(群馬県)、滋賀事業所(滋賀県)、館林事業所(群馬県)、関西営業所(大阪府)

株式会社日本キャンパック

本社(東京都)、群馬センタービル(群馬県)、群馬第1工場(群馬県)、群馬第2工場(群馬県)、利根川工場(群馬県)、赤城工場(群馬県)

オーエスマシナリー株式会社

本社(群馬県)、小樽工場(北海道)、群馬工場(群馬県)

▶ 対象期間

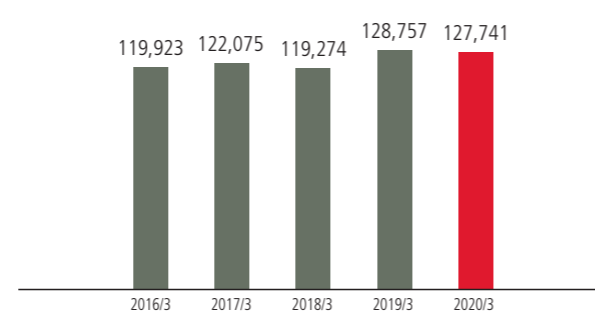
データ:2019年4月1日~2020年3月31日

活動内容:2020年9月までを対象

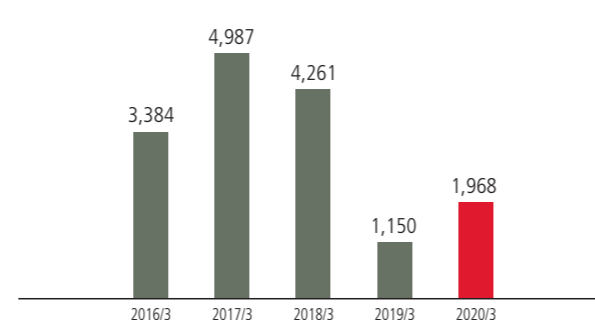
▶ 発行日

2020年12月

● 売上高 (百万円)

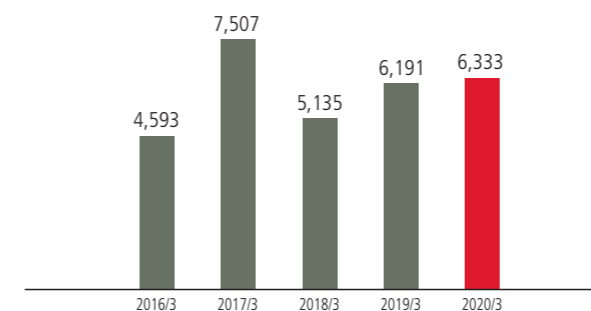


● 親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)

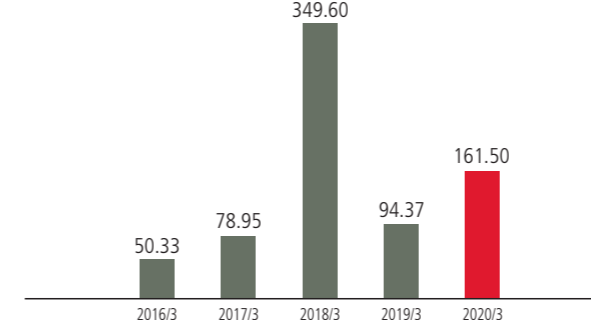


※記載金額は単位未満の端数を切り捨て、比率は単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

● 営業利益 (百万円)

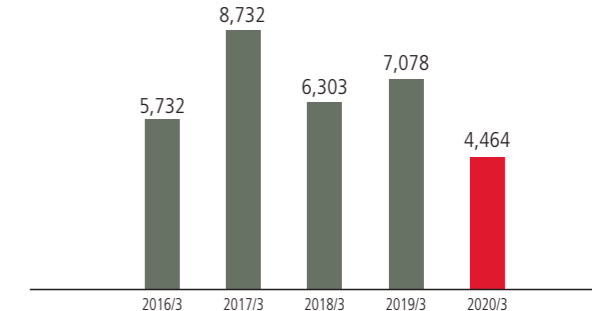


● 1株当たり当期純利益 (円)※

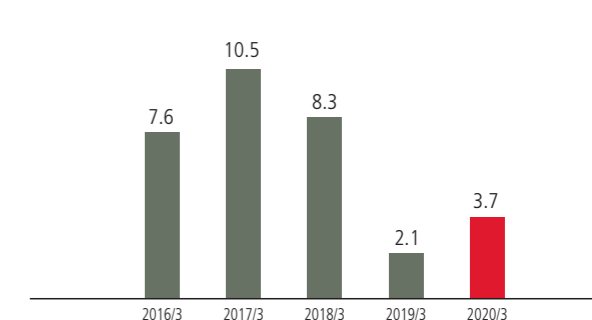


※当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合をおこなっております。2018年3月期の期首に当該株式併合がおこなわれたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

● 経常利益 (百万円)



● 自己資本当期純利益率 (%)



日本から世界へ

ものづくりの「総合力」を活かし、 新たなステージを目指す

▶ ホッカンホールディングスの事業領域

容器事業
北海製罐株式会社

飲料缶 食品缶 エアゾール缶
美術缶 PETボトル
プラスチック容器
などの製造

純粋持株会社
ホッカンホールディングス株式会社

充填事業
株式会社日本キャンパック

缶飲料 PETボトル飲料
などの充填受託

機械製作事業
オーエスマシナリー株式会社

食品・飲料用容器製造機
金型 産業機械
などの開発・製造

▶ ホッカンホールディングスの歩み

創業～事業基盤づくり

事業拡大

「容器事業」開始

「充填事業」開始

「機械製作事業」開始

売上高
(百万円)
150,000

100,000

50,000

0

1920 1950 1955 1960 1965 1970 1975 1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020

▶ グローバル拠点(海外事業)

日本キャンパック・ベトナム社*1



人口の増加や社会経済の発展から清涼飲料市場として有望視されているベトナムにおいて、株式会社日本キャンパックが蓄積した事業運営ノウハウと品質保証、製品開発力を活かし、清涼飲料の受託充填事業をおこなっています。

PT.ホッカン・インドネシア社*2



今後も旺盛な飲料消費が見込まれているインドネシアにおいて、北海製罐株式会社の高度な容器製造能力と株式会社日本キャンパックの品質保証、製品開発力を活かし、ペットボトル容器の製造から内容物の充填までを一貫しておこなっています。

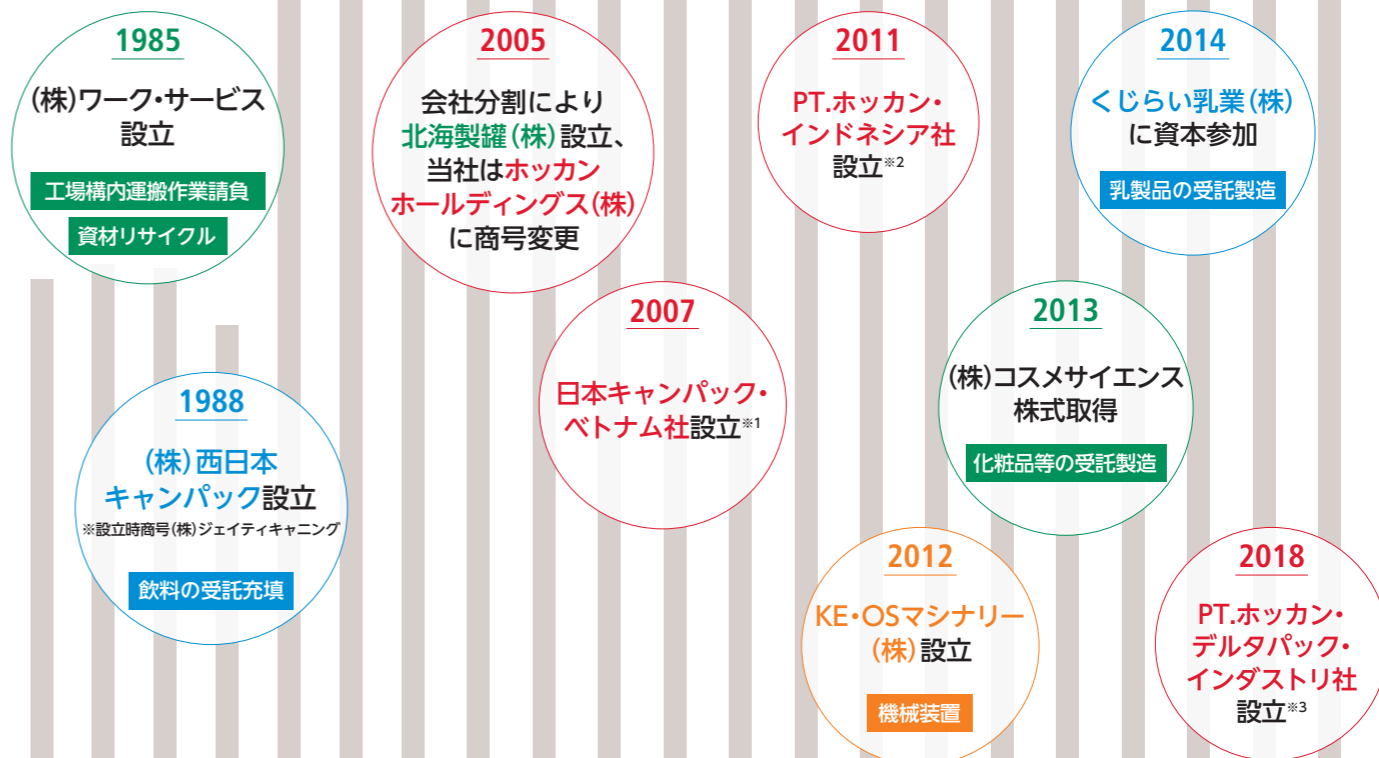
PT.ホッカン・デルタパック・インドネシア社*3



東南アジア最大の人口を誇るインドネシアにおいて、現地の有力な飲料用パッケージ製造業者であるPT. DELTAPACK INDUSTRI社との合併により、清涼飲料用パッケージ(飲料用カップやペットボトル等)を製造しています。

海外展開と連邦型経営の推進

純粋持株会社へ移行



*4 2000年度より連結決算となります。

社長メッセージ

「ステークホルダーの皆さまのニーズに応え、 持続可能な社会づくりに貢献します」

容器事業・充填事業・機械製作事業を中心とする当社グループにとって、
製品に対する安心・安全の実現、容器のリサイクルなど、CSRへの取り組みは必須です。

「CSR報告書」の発行にあたり、CSRに対する基本的な考え方を述べさせていただきます。

持続可能な社会の実現に 貢献する要素

私は、当社グループが長期的に持続可能な企業として
存続していくためには、つぎの要素が欠かせないと考え
ています。

まず、収益を持続的・安定的に確保できる盤石な財務基盤

を構築すること。新型コロナウイルス感染症の影響により
先を見通しにくい状況が続きますが、健全な事業活動の継
続を第一に、着実な収益確保を目指してまいります。

そのうえで、ものづくり力で社会・文化に貢献するという
「経営理念」、そして、環境の世紀にふさわしい企業を目指す
という「環境方針」。この両輪に基づくグループ経営を推進
し、CSR=社会的責任を果たしてまいります。この経営理念



時代の変化に対応しながら

と環境方針は、2005年10月1日のホールディングス体制
への移行と同時に制定したものであり、グループ全従業員
に配布し、常に共通意識の醸成を図っております。

ESG経営をグループで推進

企業の持続的な成長と発展に関しては、事業活動を推進
するうえで環境(Environment)・社会(Social)・ガバナ
ンス(Governance)という3つの側面が重要です。当社グ
ループでも、これらESGの観点に基づいたグループ経営を
推進しており、その概要を簡単にご紹介いたします。

E:環境負荷を低減

当社グループでは、主要事業において食品容器・飲料缶
やPETボトル等の販売をおこなっていることから、環境に
対する影響については、常に念頭においています。例えば、
北海製罐株式会社では環境問題に対応した製品の開発に
向け、再生レジンを使ったPETボトル製造や、生分解性プ
ラスチック原料の利用などに取り組んでいます。さらに、
技術部門を中心に様々な環境新素材の調査・探求を進め
ると同時に、これら新素材に対応する製造技術の確立も進め
ています。

また、飲料の充填事業を担う株式会社日本キャンパック
では、太陽光発電やお茶やコーヒーの生産粕を原料とした
バイオガス(メタンガス)による発電をおこなう等、環境負
荷低減に努めています。

S:社会とともに

当社グループでは、食品メーカー関連のお客様が非常に
高い割合を占めております。このため、食に関わる企業とし
て安心・安全な製品を提供するのは当然のことであり、グ
ループ各社において各種ISO認証をはじめ、清涼飲料水
HACCPや食品安全管理システム認証FSSC22000を取得
するなど、徹底した品質管理体制を構築しています。

また、当社グループでは多くの工場を有しており、そこに
勤務する従業員も約2,400人に達します。各地域での雇用

促進はもちろん、安全な職場環境の実現に向け、労働災害の
撲滅にも力を入れています。

G:ガバナンスの拡充

経営理念に定めた「透明性の高い連邦型経営の推進」に
基づき、各分野において知見を有する社外取締役を3名
(うち女性2名)選任する等、コーポレートガバナンス・
コードに対応した統治体制を構築しており、グループ企業
価値の向上に努めています。

変革を恐れず、新たな100年へ向かう

当社は1921年(大正10年)に北海道・小樽で創業しまし
た。その後、時代・市場の変化と、お客様・消費者の方々の多
様なニーズに応えながら、事業を継続してまいりました。お
よそ100年におよぶ歴史を創り上げてきた原動力は、「変革
を恐れない」にほかなりません。「これで良い」と現状にとど
まれば、すぐに衰退の道を迎えてしまうことになります。

今後もグループとして持続的な成長を遂げ、変わらず
社会貢献を果たしていくため、常に新しく生まれ変わる
強固な意志こそが、つぎの100年への道を切り拓くと信
じています。

ステークホルダーの皆さまへ

当社グループが今後、持続的な成長を続けていくために
は、CSRの視点は欠かせません。その範囲は、ESG経営も含
め非常に広いものですが、株主の皆様や従業員、お取引先、
お客様などのステークホルダーが重視するCSR活動項目を
きっちりと把握し、それらを優先的に推進していくことで
皆様からの信頼に応え、これからも社会的責任を果たして
まいります。

皆様の変わらぬご指導・ご支援をいただきたく、よろしく
お願い申し上げます。

代表取締役社長 池田考資

持続的成長を支える経営資源 CSR活動

▶ 経営理念

OUR MISSION

「ものづくり力」で社会・文化に貢献していきます

- 1** 容器・充填・機械製作を通じて社会・文化に貢献することをグループのアイデンティティとし、かつ、スピード感に溢れ、透明性の高い連邦型経営を推し進めることにより、グループ企業価値・株主価値の最大化を図る。
- 2** 品質本位に最善の努力をおこない、最高の製品を提供する企業グループとして特長ある技術・ビジネスモデル等の開発に努め、かつ、地球環境を大切とし広く社会・経済の発展に寄与する。

ホッカングループのものづくり力

高度化した容器・食品業界においては、ユーザー1社1社のニーズを的確に把握する“販売体制”はもちろん、需要に迅速に対応できるとともに、コスト低減を図れる“生産体制”、そして独自の提案をおこなえる“技術開発体制”が不可欠です。当社グループでは人が財産という考えのもと、それらが一体となって初めて、ユーザーの期待に応えられる、真のものづくり力が実現します。



▶ CSR活動

「環境」

環境問題を地球規模での長期的な課題と捉えるとともに、企業の持続的な発展のために地球環境の保全が不可欠であるという考えのもと、省エネルギー・省資源をテーマにグループ会社ごとに様々な活動をおこなっています。



(株)日本キャンパック 利根川工場
太陽光発電設備

「社会」

発展的な事業活動の維持・継続には、ステークホルダーとの共存は欠かせません。働きやすい職場づくり、地域住民の方との共生、製品の品質の担保など、社会的使命を果たすべく様々な活動を実施しています。



(株)日本キャンパックが寄贈した
こども園の本棚・絵本

「ガバナンス」

株主や取引先、従業員などと信頼関係を構築することは、事業の持続的な成長につながります。企業の透明性や経営の効率性を高めるために、当社グループはコーポレート・ガバナンスの充実に注力していきます。



▶ CSR活動方針

“循環型”環境対応企業

「環境の世紀」にふさわしい企業を目指します

容器・充填・機械メーカーとして「かけがえのない地球」より恵みを受けて企業活動をおこなっていることを深く認識し、「環境の世紀」にふさわしい企業を目指すため、継続的改善を実施し社会的責務を果たす努力をしてまいります。



CSRハイライト

▶ バリューチェーンにおける取り組み

調達

開発

製造

出荷・回収

「環境」

PETボトルの軽量化(省資源) [14ページ](#)
 再生レジンの採用 [14ページ](#)
 (リサイクル材100%使用のPETボトル)
 生分解性プラスチック原料の利用
 リサイクルの容易な製品の開発
 (PET素材の二重構造バリアボトル)

太陽光/バイオガス発電 [11ページ](#)
 コージェネレーションシステム [15~16ページ](#)
 茶粕・コーヒー粕の有効利用 [15~16ページ](#)
 (省エネルギー/CO₂削減)
 工場環境関係法令対応(大気、水質、騒音等)

廃棄物のリサイクル [14ページ](#)
 製品倉庫の集約化や包装材の軽量化の取り組み
 (省エネルギー/CO₂削減)
 環境保全活動への参加(美化キャンペーン) [22ページ](#)

「社会」

自由競争、公正取引
 紛争鉱物調査

品質・食品安全方針 [18ページ](#)
 フードディフェンスの取り組み [18ページ](#)
 労働安全衛生の取り組み [20ページ](#)

3R推進啓発活動 [22ページ](#)
 使用済みプラスチックの再資源化
 ((株)アールプラスジャパンへの資本参加)

発電量 (太陽光・バイオガス)

北海製罐(株)
59 千kWh 前年度比 1.7% ↑

(株)日本キャンパック
3,600 千kWh 前年度比 5.9% ↓

エネルギー使用量

北海製罐(株)
1,576 千GJ 前年度比 2.2% ↓

(株)日本キャンパック
2,007 千GJ 前年度比 3.5% ↓

オーエスマシナリー(株)
15 千GJ 前年度比 6.3% ↓

水使用量

北海製罐(株)
276 千t 前年度比 6.8% ↓

(株)日本キャンパック
8,852 千t 前年度比 4.2% ↓

オーエスマシナリー(株)
3 千t 前年度比 22.7% ↑

CO₂排出量

北海製罐(株)
76 千t 前年度比 6.2% ↓

(株)日本キャンパック
100 千t 前年度比 3.8% ↓

オーエスマシナリー(株)
0.8 千t 前年度比 27.3% ↓

女性社員数

190 人

外国人労働者数

20 人

※技能実習生は含んでおりません。

特許保有件数

119 件

国内における
 ホッカングループ全体

環境保全のために

当社グループはCSR活動方針に“循環型”環境対応企業を掲げています。
国内外20社から成る当社グループでは、環境負荷低減に向けた取り組みを、
各社が積極的に推進して、従業員自らが地球環境を守る意識を醸成しています。



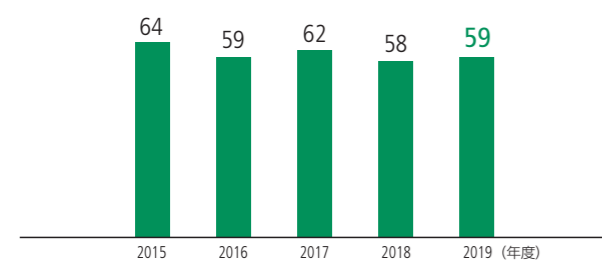
太陽光発電

当社グループでは、事業活動に伴う環境負荷低減を目指し、
太陽光発電設備の導入等、自然エネルギーの使用を推進することで、
地球環境や地域社会の持続的な発展に貢献しています。

北海製罐株式会社では、中央研究所屋上に太陽光パネルを設置しています。発電電力は、主に中央研究所で自家消費していますが、余剰が発生した場合は、その電力を売却しています。2019年度の中央研究所の発電量は59kWhで、前年度と比較してほぼ横ばいでした。
株式会社日本キャンパックでは、物流倉庫の屋根に発電

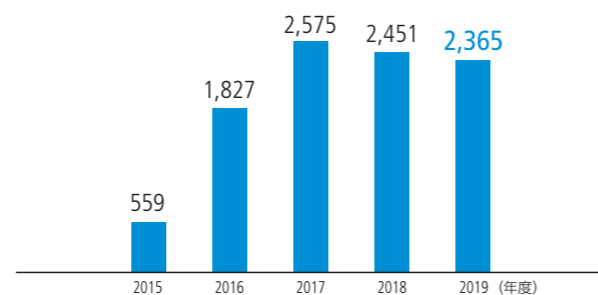
出力290kWの太陽光パネルを2014年10月と2015年5月に設置しました(合計580kW)。さらに、2016年7月、利根川工場では敷地内に発電出力600kW、屋根に1,000kWの太陽光パネルを設置しました。また、バイオガス発電設備での発電(2019年度発電量:1,235kWh)もおこなっております。

発電量(太陽光)の推移 ● 北海製罐(株) (千kWh)



※記載数値は、単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

発電量(太陽光)の推移 ● (株)日本キャンパック (千kWh)



エネルギー使用量

環境負荷低減の取り組みとして使用電力の見える化など、
グループ各社では、エネルギー使用量の減少を目指しています。

北海製罐株式会社では、消費電力の見える化を通じた省エネルギー意識の浸透や、生産効率の改善などを通じて、エネルギー使用量の減少に努めています。これらの取り組みによって、2019年度のエネルギー使用量は、1,576千GJで、前年度から約2%減少しました。

主力の飲料缶からPETボトルへお客様のニーズが変化し、製造工程におけるエネルギー使用量が低減していることも一つの理由となっています。

株式会社日本キャンパックにおいてもコージェネレーションシステムの導入により、省エネルギー効果が表れています。2019年度の製造数が前年度から約4%減少したこ

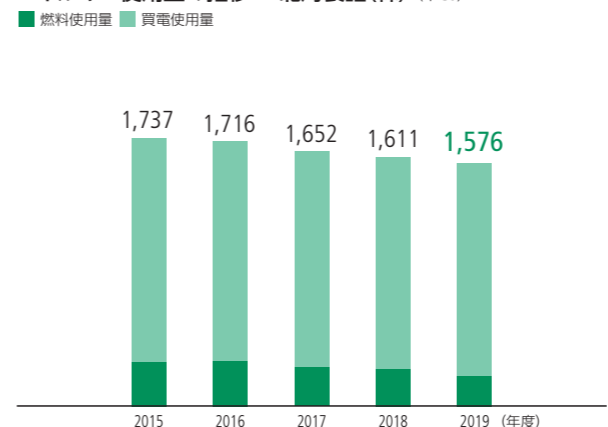
とにより、エネルギー使用量は2,007千GJと前年度から約4%減少しました。

なお、オーエスマシナリー株式会社の2019年度のエネルギー使用量は15千GJで、前年度から約6%減少しました。



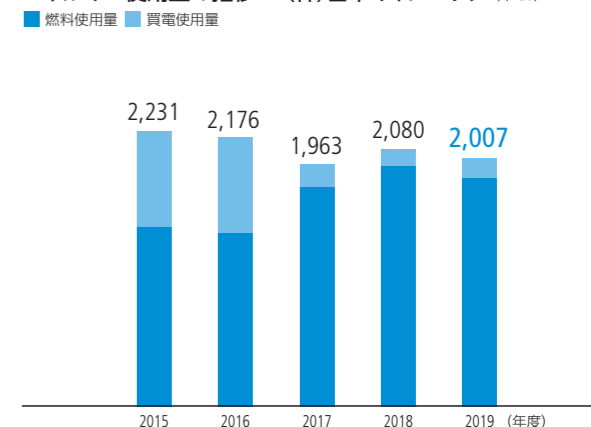
一部事業所で独自に消費電力の見える化を実施。
左:北海製罐(株)中央研究所 右:オーエスマシナリー(株)小樽工場

エネルギー使用量の推移 ● 北海製罐(株) (千GJ)



※記載数値および比率は、単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

エネルギー使用量の推移 ● (株)日本キャンパック (千GJ)



水使用量

当社グループでは水は限りある大切な資源と位置づけており、
製造工程での水使用量をできるだけ抑えながら
安心・安全な製品を提供していくことを、大きなテーマと捉えています。

北海製罐株式会社の2019年度の水使用量は工業用水と上水道の合計で、276千tとなりました。水は、主に冷却水として使用しており、製造数量の減少により、前年度

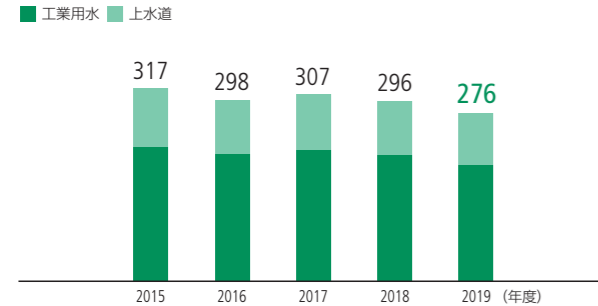
から約7%の減少となりました。
株式会社日本キャンパックでは、充填する清涼飲料水のほか、製品の加熱・冷却やタンク・配管等の洗浄に多くの水

を使用しています。2019年度の水使用量は8,852千tで、前年度から約4%減少しました。全体の使用量のなかでは井戸水の割合が多くなっていますが、冷却水等には工業用水を使用し、井戸水の過剰な汲み上げを極力抑えるように

努めています。

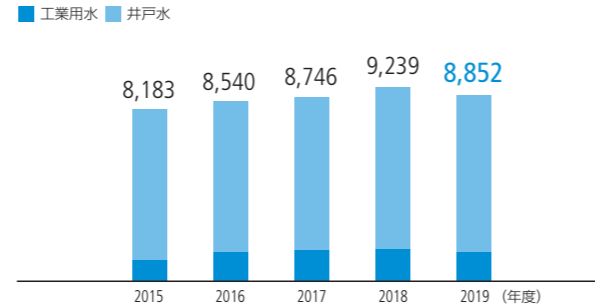
また、群馬県にある各工場では活性汚泥を用いた排水処理で、河川の生態系などに影響のない状態まで処理し、放流しています。

水使用量の推移 ● 北海製罐(株) (千t)



※記載数値および比率は、単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

水使用量の推移 ● (株)日本キャンパック (千t)



CO₂ 排出量

企業活動の持続的な成長には、

環境や社会といかに共存していくのが大きな課題となっています。

温室効果ガス排出量の削減のための設備など

ハード面からもCO₂削減の対応を進めています。

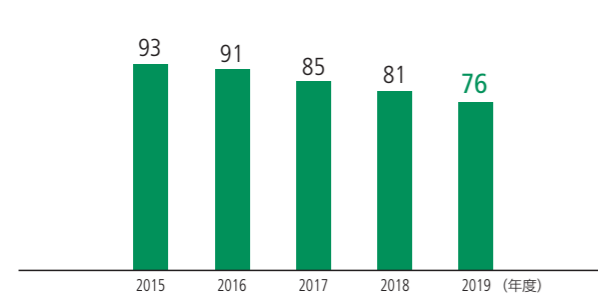
北海製罐株式会社の2019年度のCO₂排出量は、76千t-CO₂と前年度から約6%減少しました。これはエネルギー使用量と同様、お客様のニーズが変化してきたことにより製造工程におけるCO₂排出量が低減していることなどによるものです。

株式会社日本キャンパックの2019年度のCO₂排出量は

100千t-CO₂で、前年度から約4%減少しました。これは製造数の減少のほか、これまでのコージェネレーション設備の導入や、化石燃料をCO₂排出量の少ない都市ガスへ変換するなどの取り組みによるものです。

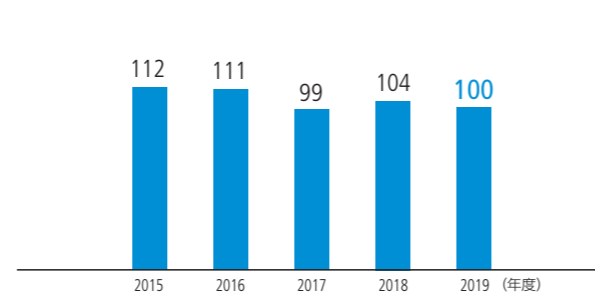
オーエスマシナリー株式会社の2019年度のCO₂排出量は0.8千t-CO₂で、前年度から約27%減少しました。

CO₂排出量の推移 ● 北海製罐(株) (千t-CO₂)



※記載数値および比率は、単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

CO₂排出量の推移 ● (株)日本キャンパック (千t-CO₂)



産業廃棄物の処理とリサイクル

当社グループでは事業の特性上、プラスチック素材を多量に取り扱っています。

限りある資源を有効に活用するために、グループ全体でリサイクルなどを推進しています。

廃棄物は製造工程から出るスクラップ等も含めすべての副産物・廃棄物を対象としています。工場では適正な分別をおこない、リサイクル(再資源)として有効なものは有価廃棄物として産業廃棄物の削減に努めています。

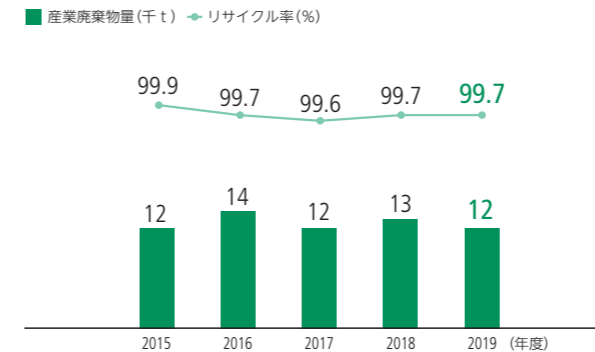
北海製罐株式会社の2019年度産業廃棄物発生量は、12千tと前年度から約4%減少しました。このうち9割以上は金属くずと廃プラスチック類であり、リサイクル率は99.7%と高い水準で推移しています。

株式会社日本キャンパックの清涼飲料水の製造工程からは、主に原料としての茶粕、コーヒー粕、また包材関連のプ

ラスチック・段ボール、飲料容器等の廃材が発生します。中でも茶粕、コーヒー粕は全廃棄物量の約83%を占め、有効利用のために様々なルート・用途でのリサイクルを実施しています。なお、リサイクル率は99.8%と高い水準を実現しています。

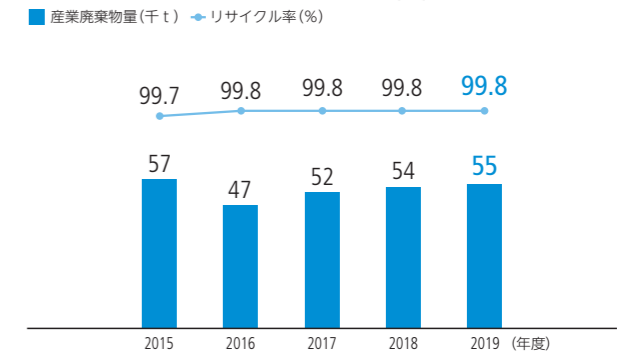
オーエスマシナリー株式会社で発生する産業廃棄物は、廃プラスチック、金属くず(切粉)、缶、PETボトル、コピー用紙などの紙類、水銀使用製品(電池、蛍光灯)などで、廃棄機械も有価廃棄物としてすべてリサイクルに排出しています。2019年度産業廃棄物発生量は43tです。

産業廃棄物量とリサイクル率の推移 ● 北海製罐(株)



※記載数値および比率は、単位未満の端数を四捨五入して表示しています。

産業廃棄物量とリサイクル率の推移 ● (株)日本キャンパック



環境対応製品の開発

当社グループは主要製品として様々な容器を扱っています。

容器としての機能を確保しつつ省資源化や環境負荷の低減を進めるため、

新素材の調査・探求や、新素材に対応する製造技術の確立に努めています。

北海製罐株式会社では地球環境負荷低減の観点から、PETボトルの軽量化による省資源の取り組みに加えて、再生レジンを使用するリサイクルPETや植物由来のプラスチックを利用したカーボンニュートラルなバイオベースPETなど、環境対応材料を使用したホットパック用PETボ

トルの開発を進め、2014年の上市以降多数の実績を上げています。2019年9月には、業界初となるリサイクル材を100%使用したホットパック用PETボトルを上市しました。2019年度はPET樹脂総使用量の約6%が環境対応材料となりました(2018年度は約4%)。

(株)日本キャンパック田嶋執行役員に聞く

「環境の世紀」にふさわしい企業へ

環境への取り組みは、今では社会貢献活動の枠にとどまらず、事業活動をおこなううえで欠かせない要素となっています。株式会社日本キャンパックでは、消費エネルギーの化石燃料から再生エネルギーへのシフトを進めるとともに、廃棄物の有効活用等、事業活動において様々な取り組みをおこなっています。

エネルギーの最適化と廃棄物の有効活用

株式会社日本キャンパックは、北関東エリアに4つの工場が集積しています。かつては各工場で電力を使用していましたが、企業に求められるCO₂削減の要請に応えながら、工場の稼働状況の変動への対応や天災(雷による停電)によるライン停止の防止など、エネルギー需給バランスの調整をおこなうため、2017年に株式会社日立製作所、日立キャピタル株式会社のご協力を得て、現在のコージェネレーションシステムを導入しました。

このシステムは、隣接する3つの工場をパイプラインでつなぎ、蒸気と電力を融通する仕組みです。さらに、発電した電力の一部を約50km離れた赤城工場に自己託送することができます。これによって、今では4つの工場トータルで使用エネルギーの最適化を図ることができるようになり、大幅な省エネルギーを実現しています(16ページ上図)。

使用エネルギーの効率化とともに取り組んでいるのが、廃棄物の有効活用です。当社は飲料の充填事業をおこなううえで、毎年多量の茶粕・コーヒー粕を排出します。これらを単に産業廃棄物として処理するのではなく、牧場畜舎の敷床や建築資材として再利用したり、バイオガス発電に用いるメタンガスの発生原料として使用することで、CO₂や産業廃棄物排出量の削減に取り組んでいます(16ページ下図)。

環境面だけではなく事業上のメリットも重要

これらの取り組みをおこなううえでは、慎重論があったことも事実です。コストメリットを出せるか否かもそのひとつです。コージェネレーションシステムの導入にあたっては、省エネルギーやCO₂削減といった環境面のメリットだけではなく、エネルギーバランスの最適化、電力託送による燃料費削減やシステム導入による業務の集約、既存設備やガス料金の違いまで考慮したエネルギー供給の優先順位の設定など、事業にとってのメリットにも配慮していくつものシミュレーションを重ね、現在の仕組みを作り上げました。現在も継続的に運用方法と稼働条件を見直し、コスト低減と効果的なエネルギー供給のために奮闘しています。

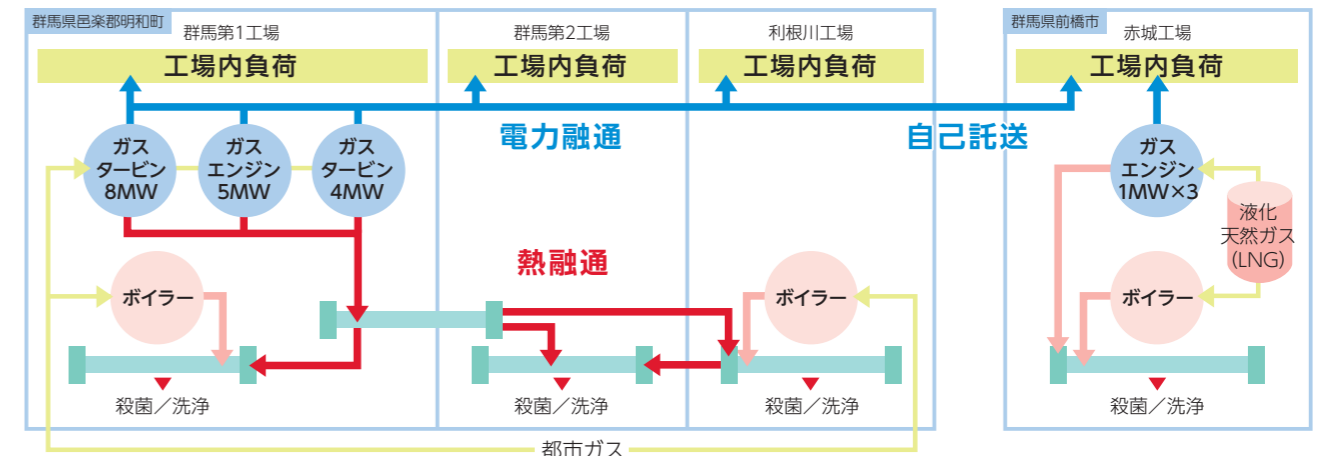
システム導入により従業員の環境意識も向上

環境問題は、今後充填事業を継続するなかで事業収益と同等に位置づけられるようになるものと考えられ、CO₂排出量の多い企業では受注獲得が困難になることも想定されます。環境への取り組みについての議論を重ねたことで、従業員の環境問題への意識は大きく向上していると思いますが、今後は将来の目標を設定して課題を明確にするとともに、環境問題に対する会社としての取り組み姿勢をさらに周知することが重要です。社内では、コージェネレーションシステム頼みの省エネルギーから脱却し、最先端の省エネルギー技術の調査・開発を進めるための議論が始まっています。設備コストとCO₂削減量のバランスを見極めながら、様々な取り組みをおこなっていきたくと考えています。

株式会社日本キャンパック
執行役員 生産副本部長 田嶋 重夫

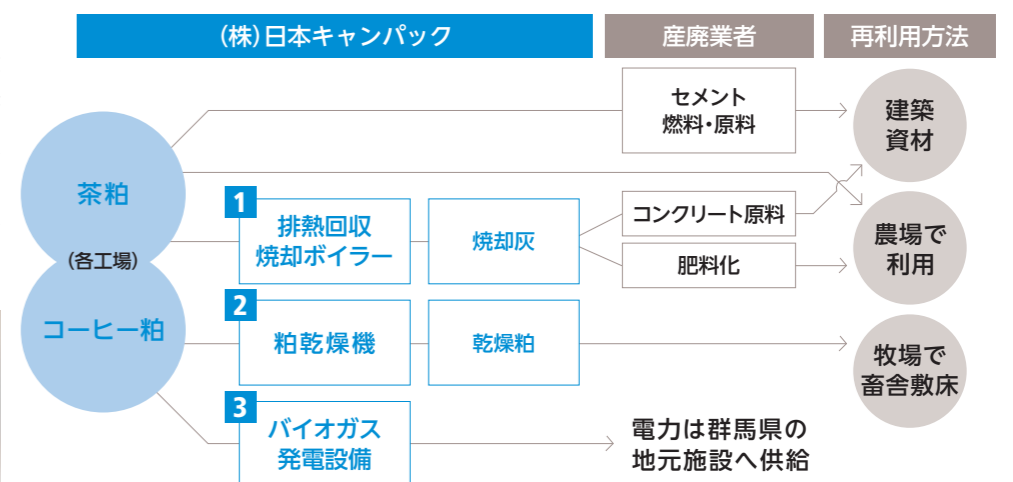
エネルギーの有効活用 コージェネレーションシステム

株式会社日本キャンパックのコージェネレーションシステムは社会的にも評価をいただき、一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センターが主催する「コージェネ大賞2017」で、産業用部門の最高賞である理事長賞を受賞しました。



廃棄物の資源化 茶粕・コーヒー粕の有効利用

株式会社日本キャンパックでは、お茶やコーヒーなどの飲料の充填に伴って排出される多量の茶粕・コーヒー粕を廃棄物として処理するのではなく、様々なルート・用途でリユースやリサイクルをおこなっています。



1 粕焼却ボイラーで農業利用

群馬第1工場には、茶粕・コーヒー粕・廃水処理汚泥を「燃料」として再利用する焼却ボイラーを設置しています。ボイラーで焼却した茶粕・コーヒー粕は肥料や建築用原料として利用されています。なお、ボイラーは廃棄物の減量だけでなく、工場内の省エネルギーにも役立っています。

2 粕乾燥機で牧場畜舎の敷床利用

利根川工場の敷地内には、含水率70~90%の茶粕・コーヒー粕を含水率10%以下まで乾燥させるロータリーキルン式の乾燥機が設置されています。この装置で乾燥した茶粕・コーヒー粕は牧場の牛舎・豚舎の敷床として再利用されており、専門業者に売却しています。廃棄物のリユースだけでなく、費用削減にも効果を発揮しています。

3 バイオガス発電設備で地域へ電力供給

利根川工場にあるバイオガス発電設備は、茶粕・コーヒー粕に加え、工場内の廃水処理設備から排出される汚泥を発酵処理し、生成されたバイオガス(メタンガス)で発電をおこなうエネルギープラントです。発電した電力のすべてが、電力供給会社を通じて群馬県の地元施設へ供給されています。



安心・安全のために

清涼飲料水を中心に、人々の食生活に関連する事業を展開している当社グループにとって、
安心・安全な製品を提供することは社会的にも大きな使命です。
衛生管理はもちろん、製造機器の保安・点検管理も徹底しています。



衛生管理

食の安心・安全を提供していくために、当社グループでは
工場内を隅々までクリーンに保つための最新鋭の検査装置の設置など、
あらゆる角度で衛生管理の徹底をおこなっています。

北海製罐株式会社岩槻工場では、ミルク缶の製造をおこなっています。繊細な乳児の食生活に大きく関わる製品で、高い安全性が求められます。同社では、1缶1缶に100%の品質保証を実現するため、製造、保管、配送など、すべての段階において衛生管理を徹底。工場内に衛生管理区域を設置し、最新鋭の検査装置と検査員の目による検査をすべての製品で実施しています。

また、株式会社日本キャンパックでは、機器類の定期的な洗浄、微生物検査、製造工程内への持込品管理、食中毒などに関する従業員教育、原料水の放射線自主分析など、「洗浄・殺菌」「防虫・防鼠」「アレルゲン管理」「異物混入防止」「従業員教育」「放射線物質」の6つのテーマに重点をおいて取り組み、製品の安全性を追求しています。



塗工・グラビア工程
温度・加湿操作盤



ミルク缶製造ライン 内外面検査室

食の安心・安全

食に関わる企業として、安心・安全な製品を提供するための取り組みに注力しています。

当社グループは食に関わる企業として品質、安全の確保に細心の注意を払っており、北海製罐株式会社では食品・飲料容器を製造する5事業所、株式会社日本キャンパックでは全事業所で、食の安全に関する国際的な食品安全マネジメントスキーム『FSSC22000』を認証取得しています。

北海製罐株式会社は、品質方針を毎年決定していましたが、従業員への周知と主要サプライヤーとの協働を深化するため、2020年4月に恒久的な「品質・食品安全方針」を制定しました。

株式会社日本キャンパックは、お客様に安心してお飲みいただける清涼飲料水を製造するため、徹底した品質保証

体制を構築するとともに、お客様第一主義、品質日本一活動を実践しています。また、防虫活動や食品防御（フードディフェンス）活動等、食の安心・安全を脅かす事象の発生防止対策に積極的に取り組むとともに、継続的に食品安全活動自体の妥当性確認や検証、是正対応を推進しています。



飲料技術スクール(NCP-BTS) 官能検査実習



品質・食品安全方針



品質日本一活動の啓発のぼり



継続的な従業員教育により食の安全を守ります。

食の安全は従業員から

飲料技術スクール (NCP-BTS) 開催

株式会社日本キャンパックでは、毎年、新入社員を対象とした飲料技術スクール(NCP-BTS)を開催しており、2019年度は2日間にわたって実施されました。

本研修のテーマは「食品衛生に関する問題」と「官能検査の基礎知識・実習」になっており、どちらも食品製造会社の社員として必要な知識となります。

食品衛生に関する講習では、Q & A方式でわかりやすく解説し、細菌の種類や、ホットパック・レトルト・無菌の充填方式がある理由等を再認識してもらい、洗浄・殺菌に対する理解も深めました。

また、官能検査では「味覚、嗅覚」を駆使した訓練を体験するなど、正解、不正解に一喜一憂しながら官能検査実習を修了。本研修の最後には修了証が授与されました。

これらの研修をおこなうことにより、新入社員の食品衛生に対する意識を高め、徹底した衛生管理の根幹となる人材の育成に注力しています。従業員一人ひとりの小さな意識の積み重ねが、安心・安全な製品の提供につながっていることを忘れず、今後も継続して実施してまいります。



従業員のために

労働者人口の減少が始まるなか、
人材確保や定着に向けた取り組みは
喫緊の課題と捉えています。
事業の発展には従業員とその家族が
いかに充実した生活を送れるかが大切であると考え、
様々な活動を実施しています。



福利厚生充実

従業員それぞれのライフスタイルに応じた住環境の整備により、
心身ともに健康的で安全な働きやすい環境づくりに努めます。

当社グループにおいて、群馬県の館林地区は容器・充填・機械製作事業の各主力工場があり、非常に重要な拠点となっております。そのようななかで、当社は館林地区にて単身者向け独身寮の増築およびファミリー向け社宅を新築することとし、2020年1月に竣工いたしました。生活に欠かすことのできない「住環境」。福利厚生施設である独身寮・社宅を充実させ、館林地区のグループ会社従業員が居住できるよう横断的に展開し、運用してまいります。また、全国各地から優秀な人材を確保するなど、今後の人材採用の観点から、安心して働くことができる住環境を整えることは当社グループの魅力向上の支えになると考え、重要視しております。今後も当社グループの従業員が働きやすい環境の整備に努めてまいります。



ダイバーシティの推進

多様な価値観や個性を持ち様々なライフイベント下にある従業員が、
自らの能力を発揮していきいきと働ける環境の整備を推進しています。

ワーク・ライフ・バランスに配慮した勤務制度

当社グループでは、女性従業員が一層活躍し、すべての従業員が安心して働けるよう、育児休暇、介護休暇その他の休暇制度やスーパーフレックス制度を導入しています。2020年4月からは定年を65歳に延長したほか、自宅等での勤務が可能となるテレワーク制度を開始しました。

外国人実習生の受け入れ

ベトナムから技術実習生を受け入れている一部工場では、通訳者の常駐や日本語教育のほか、掲示に日本語とベトナム語を併記するなどの環境整備をしています。

障がい者雇用

オーエスマシナリー株式会社では、毎年地元の北海道高等専門学校からの就業体験を受け入れています。この活動から採用につながることもあり、今後も継続する予定です。

従業員の安全管理

装置産業を主とする当社グループでは、各社において安全衛生委員会等を設置し、
労働災害等を未然に防ぐ取り組みをおこなっています。

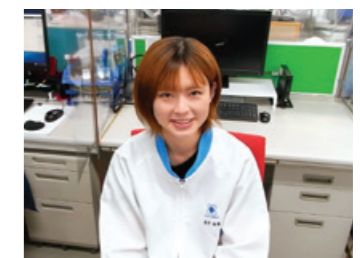
当社グループでは、安全を第一に考え、工場の視察・巡視や各従業員の安全意識の向上および安全知識の習得のための教育など、労働災害を未然に防ぐ活動をおこなっています。
オーエスマシナリー株式会社では毎年、安全性をテーマに

した標語を全従業員から募集し、優秀作品を掲示することで一人ひとりの安全に関する意識向上に努めています。また、現場の改善提案を全従業員がおこなえる仕組みを取り入れ、これを推進するために提案数の見える化を実施しています。

従業員の声

育児短時間勤務制度で、仕事と家庭の両立を実現

私は2019年の7月から約9ヶ月、育児休暇を取得しました。休暇中は育児で慌ただしく一日が過ぎていく毎日でしたが、子どもの成長をそばでずっと感じることができたのは最高の幸せでした。現在は育児短時間勤務制度を利用しながら働いています。仕事と家庭を両立できるかどうか不安でしたが、上司や同僚から多くのサポートを受けていることに気づき、周りへの感謝の気持ちがより一層強くなりました。限られた時間のなかで、常に最善のパフォーマンスができるよう心がけています。



株式会社日本キャンパック
品質保証部 金子 由希

技能実習生制度で、夢の実現を目指す

先進国である日本で仕事の経験を積むため、2019年2月から働いています。今は製造ラインで製品の品質や機械の設定条件のチェック、金型清掃などを実習しています。言葉がわからないこともありますが、皆さん優しく親切で、日本語の勉強会をしてもらったり、安全第一で機械を操作することを教えてもらいました。仕事以外にも家庭のゴミ出しルールなど、生活で気をつけることを教えてもらいました。夢は自分の会社をすることで、帰国後はまずベトナムの日本企業で働くかベトナム企業に入り、北海製罐で学んだことを活かして仕事の改善などに取り組みたいです。



北海製罐株式会社
千代田工場 食調容器係(技能実習生)
ヴォハー・ミン・ホアン

地域とともに

当社グループでは、事業活動は地域社会とともにあることを強く認識しています。地域社会から信頼される企業集団を目指し、各工場が地域の住民の方々と密にコミュニケーションを取り、様々な活動をおこなっています。



ネーミングライツを取得し2018年4月1日より明和町ふるさと産業文化館の愛称が「日本キャンパックホール」へ。

ボランティア活動

当社グループは地域に根差した企業活動を実践するため、従業員参加型のボランティア活動を工場単位で実施するなど、地域との共生を目指しています。

北海製罐株式会社千代田工場では、年1回、地域のクリーン活動をおこなっています。2019年度は10月に実施。工場周辺でポイ捨てされた容器包装類、タバコの吸殻に加え、木くず、落ち葉などを収集し、地域の皆様が過ごしやすい環境を整える活動を実施しました。



北海製罐千代田工場での地域クリーン活動

オーエスマシナリー株式会社群馬工場では、所属する鞍掛工業団地の連絡会である鞍掛工業クラブ主導のもと、安全運転推進活動と清掃活動をそれぞれ年1回実施しています。2019年度の安全運転推進活動は、5月に春の全国交通安全週間に合わせておこない、周辺道路交差点にて街頭活動を実施。また、清掃活動は6月に周辺道路および敷地内を中心にゴミ拾い・除草を実施しました。



オーエスマシナリー群馬工場が実施している周辺道路の清掃活動

地域社会との連携

事業の継続と発展を図るとともに、住民とのより良い関係性構築のために、子どもの成長を応援しています。

株式会社日本キャンパックの工場が所在する群馬地区は、一大消費地である関東圏で立地が良く、水資源も豊富なことから、清涼飲料水の生産に適した土地です。この場所で事業を継続・発展させていくためには、地域との連携が不可欠です。同社は主力工場が所在する群馬県邑楽郡明和町における地域貢献方針として、2017年度より「20年幸せ応援計画」を策定し、

- ①次世代を担う地域の子育て応援による地域貢献
 - ②文化活動を支援することによる社会貢献
 - ③地域の環境向上への支援を通じた地域貢献
- の3つの基本理念のもと、様々な活動を展開しています。

この「20年幸せ応援計画」は、地域の子どもが生まれてから成人するまでの成長を様々な形で支援していくもので、防犯カメラや保健室のベッド、冷水機の寄贈など、子どもの健康

や安全に配慮した支援をおこなうほか、こども園への本棚・絵本の寄贈や上毛かるた大会への協賛、ドッチビー大会(ドッチボールとフリスビーを合わせた競技)の支援、成人式での記念品贈呈など、世代ごとに多様な活動を実施しています。

これらの取り組みによって、次世代の子どもたちに小さな頃から地元企業としての同社を身近に感じてもらい、若手の人材確保につなげるだけでなく、地域の方々が末永くこの地で生活していける環境づくりに貢献しています。



防犯カメラ



(株)日本キャンパックのキャラクター「ジュウテンジャー」が描かれた保健室のベッド

環境保全活動

缶やPETボトルなどは、リサイクル性の高い製品です。社内外でリサイクルを推進する活動を展開することで、環境保全に取り組んでいます。

北海製罐株式会社では、製造販売する各種容器類の業界リサイクル推進団体に加盟し、各団体がおこなう種々の活動に積極的に参画しています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、2020年度は実施を見合わせている状況ですが、今後とも機会を捉えて環境保全活動に取り組んでまいります。

2019年度の活動実績

▶日本最大級の環境展示会であるエコプロ展に各リサイクル協会の一員として出展に協力し、3R推進の啓発活動を実施しました。

▶スチール缶リサイクル協会の一員として空き缶のポイ捨て防止・地域美化推進への協力を呼びかけるため、1973年から続く美化キャンペーンに参加しました。第1回目の6月1日には沖縄県豊見城市豊崎美らSUNビーチで、第2回目の11月24日には静岡県焼津市の石津海岸公園付近の海岸で、清掃活動と環境美化を呼びかけるポケットティッシュなどを配布しました。

北海製罐(株)が参画している各種リサイクル団体名と役職

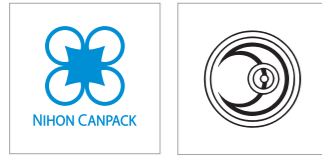
リサイクル団体名	役職
PETボトル協議会	理事および委員
PETボトルリサイクル推進協議会	理事および委員
スチール缶リサイクル協会	理事および委員
アルミ缶リサイクル協会	賛助会員
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会	正会員
公益財団法人 日本容器包装リサイクル協会	PETボトル事業委員会委員



静岡県焼津市の石津海岸での「散乱防止・美化キャンペーン」

地域とともに歩む

社会との共存・共栄を目指して



(株)日本キャンパック×群馬県邑楽郡明和町 小学生の健康に配慮した支援の実施

昨今の夏場の暑さに伴う熱中症対策として、明和町立明和東小学校に冷水機3台を寄贈しました。これは2019年の明和町立明和西小学校への寄贈に続くものです。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で夏場の登校機会が増えた子どもの健康を守るため、明和町の小学校に通う全児童にネッククーラーを配付しました。地域社会のニーズに合った貢献を継続することにより、地域住民の方々から信頼される会社を目指してまいります。



明和町立明和東小学校



寄贈した冷水機とネッククーラー

MESSAGE

地域に根差した社会貢献「20年幸せ応援計画」

日頃より株式会社日本キャンパックさんには、本町の教育活動に多大なるご貢献をいただいております。心より感謝申し上げます。

言うまでもなく子供たちは地域の宝、国の宝であり、20年後、30年後に社会を支えていく子供たちの教育力を高めることは最重要課題であります。このことに目を向け社会貢献していただいていることは、地域に根差した素晴らしい企業であります。

これからも明和町とともに地域に親しまれる企業として発展していただけることを願いメッセージいたします。



明和町教育委員会
教育長 金子 博氏



(株)日本キャンパック×群馬県前橋市

大室公園のネーミングライツを取得

(日本キャンパック大室公園)

株式会社日本キャンパックは、群馬県前橋市にある大室公園のネーミングライツを取得しました(2019年4月1日から3年契約)。これは、株式会社日本キャンパックの知名度を高める目的のほか、同社赤城工場が所在する群馬県前橋市において、地域住民の憩いの場として愛される大室公園の施設・設備がさらに充実したものとなることを期待されることから、地域社会への貢献を目的として実施したものです。



北海製罐(株)×北海道小樽市

趣のある景観を保持し、由緒ある街を守る

北海製罐小樽工場

かつて海運貿易と漁業を中心に北海道開拓の玄関口として栄え、今では北海道有数の観光地として人気の高い街・小樽。水産缶詰用空缶の製造と倉庫業を営む会社として始まり、2021年には100周年を迎える当社の起源は、この街にあります。

その設立当初から稼働する小樽工場の歴史は、小樽港と倉庫を結ぶ水路として1923年に完成した小樽運河の歴史でもあり、運河と同時期に完成した小樽工場第3倉庫では、製品を運河へ搬出していた特徴的なスパイラルシュートの姿をみることができます。

小樽運河がその役割を終え観光名所として生まれ変わってからも、街の景観を損ねないように修繕を繰り返してきた小樽工場の施設群は、1990年に小樽市都市景観賞を受賞し、2012年には小樽市から歴史的建造物に指定されました。その佇まいは小樽運河の一部として溶け込み、今日もエキゾチックな小樽の街とともに新たな歴史を刻んでいます。



小樽市の歴史的建造物に指定されている「小樽工場第3倉庫」

小樽罐友倶楽部

小樽市を散策すると、ひっそりと佇む檜造りの和風建築物が目にとまります。東京信濃町の料亭「光亭」の店舗として1937年に建築され、現在は北海製罐株式会社が所有する罐友倶楽部です。

かの棟方志功が居候していたというこの建物には、客同士が鉢合わせするのを避けるために複数の動線を設け、照明は一つひとつ形が異なるなど、各所に料亭としての細やかな配慮がなされています。

北海製罐株式会社は、小樽市から歴史的建造物に指定されたこの建物を、大切なお客様を迎える場として活用しながら守り続けています。



地域住民の生活に溶け込むサイレン「ポー」



観光客を迎え続ける「小樽工場」



「小樽罐友倶楽部」

TOPICS

小樽市に防護服を寄贈

ホッカンホールディングス株式会社は、国内外で新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか医療の現場で深刻化する衛生用品不足を支援するため、小樽市を通じて医療等に従事される方向けの防護服(計450着)を寄贈しました。

当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の最前線において尽力されている皆様に心からの感謝と敬意を表するとともに、役員・従業員一体となって感染拡大防止に努めてまいります。

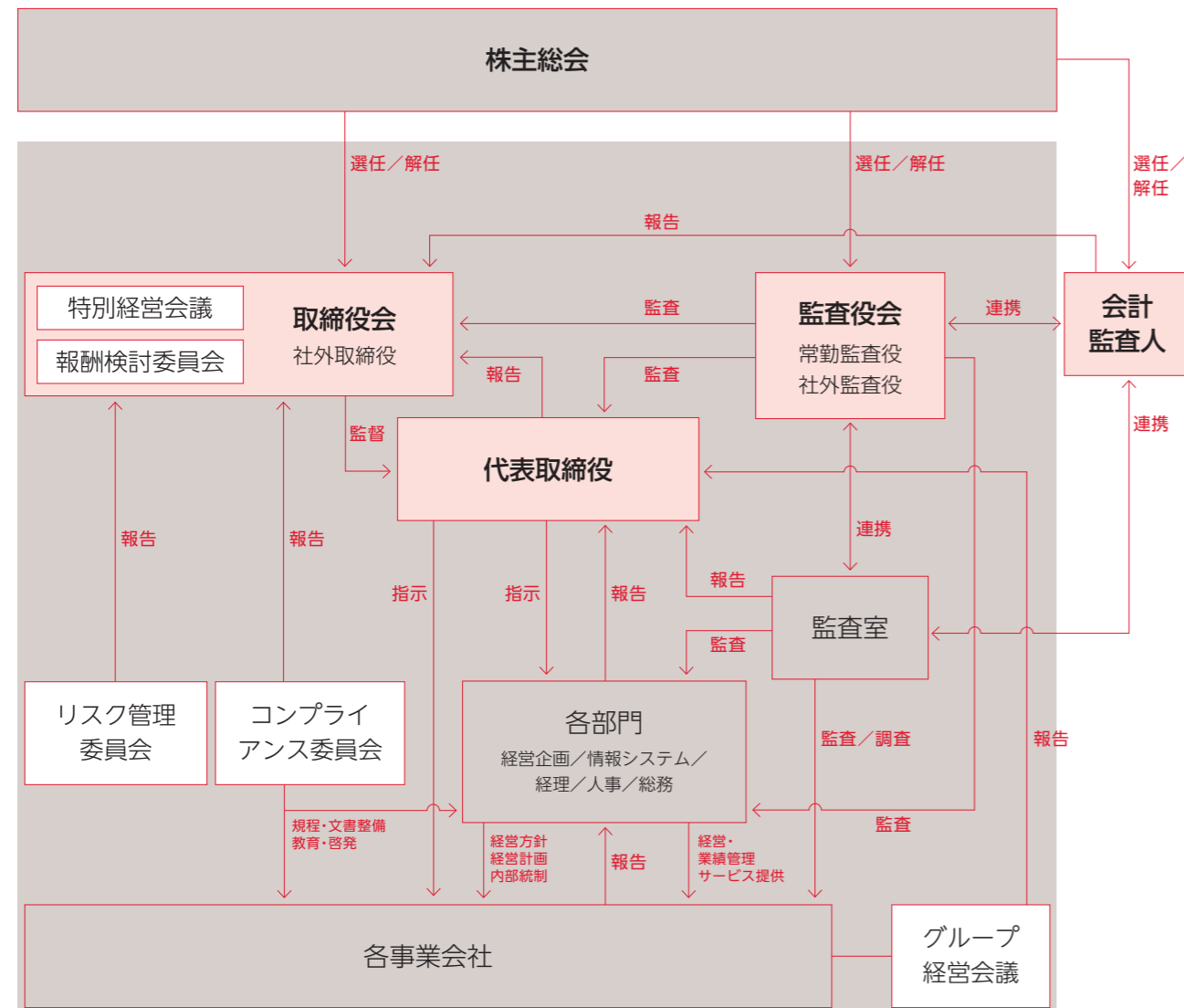


コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス体制

当社グループは、持株会社体制のもとで意思決定の迅速化と権限委譲を図るとともに、法令遵守、公正性、倫理性を重視し、経営の透明性を高め、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることを重要施策としており、取締役会、監査役会

を中心とした経営管理体制を構築しています。当社の役員は社外取締役3名を含む取締役9名(うち女性2名)と、社外監査役2名を含む監査役4名で構成されています。



取締役会

取締役会は原則として毎月1回開催し、重要事項を決定するとともに業務執行状況を監督しています。また、内部統制システムの構築およびその運用状況の確認、コンプライアンス委員会やリスク管理委員会からの報告の受領等、グループのリスク管理についての監督をおこなっています。なお、2019年度において取締役会は13回開催しています。

監査役会

監査役会は定期的に行われ、監査の方針、監査役会の職務分担等を定め、監査の実施状況および結果の報告を受けるほか、取締役等や会計監査人から職務の執行状況について報告を受け、説明を求めるなどの方法により、取締役の業務執行の厳正な監査を実施しています。なお、2019年度において監査役会は10回開催しています。

取締役会の実効性評価

当社は毎年、第三者機関を活用して、すべての取締役と監査役を対象に取締役会全体の実効性に関するアンケートを実施し、その分析結果に基づき取締役会で議論しています。その結果、当社の取締役会は全体として実効性が確保されていることが確認されています。一方で、「ステークホルダーとの関係」については建設的な意見が出されており、さらなる拡充を目指します。

取締役・監査役の名指し／報酬

取締役・監査役の名指し

当社は現時点において任意の名指し委員会を設置していませんが、取締役候補者の選定にあたっては、取締役社長が人格・識見・能力・経験その他の基準および社外取締役の独立性判断基準に基づいて人事案を作成し、社外取締役の意見を求めたうえで取締役選任議案について取締役会決議を経ています。

監査役は、取締役社長が、本人の資質や経験を勘案して監査役会へ推薦し、監査役会の同意を得て、監査役選任議案について取締役会決議を経ています。

取締役および監査役の名指しの決定

取締役の報酬は基本報酬と株式報酬により構成されており、社外取締役は、基本報酬のみの支給となります。

取締役の基本報酬は、取締役会内に任意の報酬検討委員会を設け、各取締役の経歴、見識、実績等を踏まえて、毎年の業績を勘案・連動した報酬額の原案を作成し、社外取締役の意見も十分に加味するなど透明性を維持したうえで、取締役会で決定しています。

取締役の株式報酬は、当社が役位に応じて毎年付与するポイント数に応じ、原則として取締役の退任時に、当社が設定する信託を通じて当社株式を交付するものです。

監査役の報酬は、株主総会の決議の定める総額の範囲内において、監査役の協議により決定しています。

コンプライアンス体制

当社グループの企業倫理規程として「経営理念」「環境方針」「情報セキュリティ基本方針」「役職員行動規範」を定め、人権の尊重、環境への配慮、腐敗防止や反社会的勢力の排除など、当社グループ全体の業務の適正を確保しています。

また、コンプライアンス委員会を設置し、原則として年4回開催して、当社グループ全体のコンプライアンス活動の状況の報告を受け、法規制や行政機関からの指導通達に関わる情報を収集して、業務の適正確保に向けた通知・連絡、規則・ガイドラインの策定や教育・研修等をおこなっています。

業務運営に関する違法、不正または不当な行為の早期発見および是正を図るため「内部通報制度」を活用しており、通報・相談があった事案については速やかに調査のうえ、社内規程に則り適切に対応しています。

リスク管理体制

社長を委員長とし、原則として年2回開催する「リスク管理委員会」を中心としてグループ全体のリスク管理を統括するとともに、定期的にリスクの識別等を実施し、抽出された個々のリスクについての対応を継続的に実施することによりリスクの極小化に努めています。不測の事態が発生した場合には、社長を本部長とする危機管理対策本部を設置し迅速な対応をおこない、損害の拡大を防止し、これを最小限に止める体制を整えることとしています。

IR活動

株主、投資家の皆様との建設的な対話を促進し、会社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資するため、「情報の開示およびIRに関する方針」を定め、これに基づいて適切な情報の開示およびIR活動を実施しています。

http://www.hokkanholdings.co.jp/ir/disclosure_policy.shtml

コンプライアンス活動の状況

独占禁止法遵守の取り組み

「役職員行動規範」および同細則において独占禁止法違反行為を禁じ、これを徹底するために営業職における行動指針を定めて周知しています。また2019年12月から2020年2月にかけては、国内外グループ会社を含めた役員、幹部従業員および営業関係者を対象として、独占禁止法の規制の内容や営業担当者の取るべき実務対応等に関する外部講師によるセミナーを開催しました（計4回）。

北海製罐株式会社では、独占禁止法および入札談合等関与行為防止法の遵守並びに独占禁止法違反行為への関与の防止を目的として、2019年10月1日付で「独占禁止法遵守規程」を制定しました。

コンプライアンスを徹底するための取り組み

コンプライアンスを徹底するため「コンプライアンス・ハンドブック」を日本語、英語、インドネシア語、ベトナム語で作成し、国内外グループ会社を含めた全従業員に配付しています。また、これに基づいて、毎年1回、国内外のグループ会社従業員を対象とするコンプライアンス研修を実施しています。

国内グループ会社では、内部通報制度の実効性を高めるために通報窓口が記載された「ホットライン案内カード」を配付し、従業員が常時携帯できるようにしています。



リスクマネジメントの状況

買収防衛策の廃止

2020年6月26日開催の第95回定時株主総会の終結の時をもって「当社株式の大規模買付行為に関する対応策（買収防衛策）」を廃止しました。

当社は、株主の在り方については市場における自由な取引を通じて決められるものであり、大規模買付行為の提案がなされた場合にこれに応じるべきか否かの判断についても、最終的には株主の全体の意思に基づきおこなわれるべきものと考えています。大規模買付行為等がなされた際には、株主の判断に必要な情報の提供を求め、取締役会の意見等を開示し、検討時間の確保に努めるなど、法令に基づき適切な措置を講じます。

新型コロナウイルス対策

国内外で感染が続く新型コロナウイルスへの対策として、事業所における消毒用アルコール液や検温機、パーテーションの設置の取り組み、自宅勤務や分散勤務、Web会議の活用など従業員の安全に万全を期すほか、感染者が確認された場合に誹謗中傷や差別行為など感染者の人権が侵害されることがないように徹底することを含めた事業継続のための対応を策定し、国内外グループ会社全体で共有しています。



工場入口に消毒用アルコール液を設置



検温機

食堂にパーテーションを設置

取締役・監査役一覧

取締役



くどう つねのぶ
工藤 常史

取締役会長（代表取締役）



いけだ こうすけ
池田 孝資

取締役社長（代表取締役）

北海製罐株式会社
代表取締役社長
株式会社日本キャンパック
代表取締役社長



ふじもと りょういち
藤本 良一

取締役副社長
社長補佐



さとう やすひろ
佐藤 泰祐

取締役常務執行役員

容器事業
技術・生産部門統轄



たけだ たくや
武田 卓也

取締役執行役員
総務部・人事部・CSR担当



すなひろ としあき
砂廣 俊明

取締役執行役員
経理部・経営企画室担当



あんどう のぶひこ
安藤 信彦

取締役（社外） 独立役員
弁護士・
安藤総合法律事務所所長



みやむら ゆりこ
宮村 百合子

取締役（社外） 独立役員
税理士・
辻・本郷税理士法人参与



ふじた あきこ
藤田 晶子

取締役（社外） 独立役員
明治学院大学 経済学部
国際経営学科教授

監査役



たけだ ゆり
竹田 由里

常勤監査役
北海製罐株式会社監査役
株式会社日本キャンパック
監査役



こいけ あきお
小池 明夫

監査役
北海製罐株式会社監査役



たしろ ひろき
田代 宏樹

監査役（社外） 独立役員
弁護士・
田代法律事務所所長



すずき てつや
鈴木 徹也

監査役（社外） 独立役員
税理士・
鈴木税理士事務所所長

女性取締役へのアンケート

当社の取締役会とESGおよびダイバーシティの現在、そして期待される姿について伺いました。

社外取締役

宮村 百合子



税理士

辻・本郷税理士法人参与
2019年6月当社社外取締役就任

当社取締役会の雰囲気について

議題について真摯に議論がおこなわれており、また、議長が社外取締役への発言を促す等、発言や質問がしやすい風通しのよい雰囲気だと思います。取締役会以外のインフォーマルな議論の場や、社外取締役のみの議論の場を設けていただくことで、より取締役会が活性化するのではと思います。

取締役会の審議において重視するポイント

株主等をはじめステークホルダーに不利益になるかどうかを重視しています。特に資産購入、M&A等の取引は、方向性が間違っていないかどうか、会社を棄損させないかどうか注意しています。ステークホルダーの視点から、内部出身者には常識と思える点でも疑問点は質問し、その場で回答を得るようにしています。

当社グループに求められるダイバーシティの取り組み

私自身の経験から、女性でも遜色なく経営に参加できると実感しています。社内出身の女性役員の登用は、全女性社員の目標となり、励みになりますから、社外だけでなく社内からの登用が重要です。女性社員のプロジェクトチームをグループで組成することも検討するべきでしょう。

また女性だけでなく、障がい者が能力や適性を発揮できる職場づくりも同様に継続しておこなうべき取り組みだと思います。

当社グループに変わらないで欲しいところ、変わらなければならないところ

世界に誇れる100年企業として、何よりも従業員とその家族そして地域を大切に、また従業員とその家族そして地域が当社グループのことを大事に、誇りに思っているホッカンスピリットは変わらないで欲しい点です。他方、100年の歴史や過去の内部留保に甘んじることなく、若い池田社長のリーダーシップにより、果敢に開発や新規事業に挑戦していく姿勢が重要です。

社外取締役

藤田 晶子



明治学院大学

経済学部 国際経営学科教授
2020年6月当社社外取締役就任

当社取締役会の雰囲気について

就任前は形式的な堅苦しい会議を想像していましたが、緊張感ただようなかにも、自由に質問や意見できる雰囲気を意識して作ってくださっていると感じます。どのような質問にも丁寧に真摯に答えくださいますし、重要な議題については時間をかけて議論しようとする姿勢がうかがわれます。

取締役会で指摘、アドバイスしたいこと

財務会計の研究者として、適切な情報開示のあり方を一緒に議論できればと考えています。中長期的な企業価値向上のためにリスクテイクは必要ですが、株主に対して、経営陣がとろうとしている戦略の必要性・その意思決定に至るまでの議論・将来のキャッシュ・フロー生成力などについて、丁寧に説明をし、理解を求めるとともに、ときに株主の意見に耳を傾けることも重要と考えています。

あるべきESGの姿と当社への期待

環境・社会・ガバナンスのいずれも企業の持続的成長には必要不可欠な要素です。それぞれの視点の強化が当社グループの未来につながると考えます。とりわけ、今後、ますます厳しくなるであろう環境規制をいかにクリアしていくかは当社グループにとって喫緊の課題ですが、義務というよりもむしろチャンスと捉え、他社にさきがけて積極的に課題解決に取り組んでいただきたいと期待します。

当社グループの強みと、強化すべきポイント

就任して1年にもなりません、企業としてその社会的責任を果たしていこうという想いにあふれた、とても誠実な企業だと感じます。今後、より一層、力を入れていただきたいと考えるのは、他社との差別化を図るための技術力やノウハウ等の無形財への投資です。投資効果の測定が難しい領域ですが、より集中的で効率的な研究開発投資やBtoBであってもブランド価値向上のための投資があってもいいかと思えます。



ホッカホールディングス株式会社

代表者	代表取締役社長 池田孝資	資本金	110億86百万円
創業	1921年10月23日	上場証券取引所	東京証券取引所、札幌証券取引所
設立	1950年2月1日	所在地	東京都千代田区丸の内二丁目2番2号



北海製罐株式会社

最先端をいく容器のトータルカンパニー

北海製罐株式会社は、食品用缶や飲料用缶といった金属容器とPETボトルなどのプラスチック容器を中心に、様々な容器の開発から販売までをおこなう会社です。独自の技術と研究開発力によって、次々と新製品を市場に投入。時代のニーズを捉えた先進的な製品でお客様の期待にお応えしています。

従業員数	415名(2020年3月末時点)
事業所	本社(東京都)、中央研究所(埼玉県)、岩槻工場(埼玉県)、千代田工場(群馬県)、小樽工場(北海道)、明和工場(群馬県)、滋賀事業所(滋賀県)、館林事業所(群馬県)、関西営業所(大阪府)
マネジメントシステムの認証取得	品質マネジメント規格 ISO9001 ▶本社を含む全事業所 環境マネジメント規格 ISO14001 ▶本社を含む全事業所 食品安全マネジメント規格 FSSC22000 ▶岩槻工場、館林事業所、千代田工場、滋賀事業所、小樽工場



株式会社日本キャンパック

ヒット飲料を支えるリーディングカンパニー

株式会社日本キャンパックは、缶飲料やPETボトル飲料の充填事業を核とした、飲料の受託生産をおこなう会社です。高品質かつ高速の大ロット生産はもちろん、特殊形状の容器や小ロット生産にまで対応できる設備が整っています。特に、毎分1,200本という世界最高速の無菌充填が可能であるPETボトル飲料の生産ラインでは、受託充填企業として日本一の年間29億本という生産数を誇っており、缶飲料についても毎分1,500本の缶飲料を安定して生産することが可能です。

従業員数	492名(2020年3月末時点)
事業所	本社(東京都)、群馬センタービル(群馬県)、群馬第1工場(群馬県)、群馬第2工場(群馬県)、利根川工場(群馬県)、赤城工場(群馬県)
マネジメントシステムの認証取得	品質マネジメント規格 ISO9001 ▶赤城工場、利根川工場 食品安全マネジメント規格 FSSC22000 ▶利根川工場、赤城工場、群馬第1工場、群馬第2工場 情報セキュリティマネジメントシステム規格 ISO27001 ▶TPS情報システム部



オーエスマシナリー株式会社

技術力という信頼を持つ総合機械カンパニー

オーエスマシナリー株式会社は、飲料容器関連の機械を中心に、幅広い分野の産業機械を手掛ける総合機械メーカーです。超高速かつ超精密度で生産できる容器製造機やミクロン精度の缶工具、精密金型など、新発想の缶やPETボトルを生み出すために不可欠な機具を設計し、製作。そして、製作した機械の設置や運転後のアフターフォローまで、一貫したサービスでお客様のご要望に応えられる体制を整えています。

従業員数	81名(2020年3月末時点)
事業所	本社(群馬県)、小樽工場(北海道)、群馬工場(群馬県)
マネジメントシステムの認証取得	品質マネジメント規格 ISO9001 ▶小樽工場、群馬工場 環境マネジメント規格 ISO14001 ▶小樽工場

CSR担当役員からのメッセージ

当社は、1921年に北海道小樽市に創業、1971年には8割の従業員とともに本州へ進出、1973年には充填事業の開始、1974年には機械製作事業の開始など時代とともに変革し、またこの容器・充填・機械製作・海外の4事業を通じて社会・文化に貢献することをグループのアイデンティティーとしております。

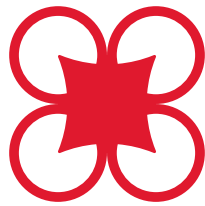
当社グループが、社会から信頼される企業集団であり続けるため、コンプライアンスのさらなる強化、リスクマネジメントの推進、さらにはコーポレート・ガバナンス体制の充実、内部統制システムの強化により、透明性の高い連邦型経営を推し進め、グループの企業価値を高め、ステークホルダーの皆様の信頼を高めるよう努力してまいります。

そして、環境問題、ダイバーシティ、高齢化社会、グローバル化などの諸問題への企業としての社会的責任を果たすため、全従業員がさらにCSRの意識を高め、叡智を結集し、社会に貢献してまいります。

ホッカホールディングス株式会社
取締役執行役員
総務部・人事部・CSR担当

武田 卓也





HOKKAN HOLDINGS

「CSR REPORT 2020」に関するお問い合わせ先

ホッカンホールディングス株式会社 総務部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内二丁目2番2号

TEL 03-3213-5111 (代表) FAX 03-3213-5366

<http://www.hokkanholdings.co.jp/>

